

2012年10月29日 日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

1. 最近の主な受賞

「国際ドラマフェスティバル in TOKYO」の「東京ドラマアウォード」において、ドラマ「家政婦のミタ」が作品賞グランプリや脚本賞を含む 5 部門で、ドラマ「妖怪人間ベム」が作品賞優秀賞等、2 部門で受賞した。作品賞グランプリは「アイシテル～海容～」以来、3 年ぶり 2 回目。

また「日本民間放送連盟賞」技術部門の最優秀賞を 4 年連続で受賞した。今回は「位相調光制御対応 LED 駆動装置の開発およびフラッドライトの実用化」が対象で、日本テレビ技術陣の水準の高さを評価して頂けた。

このほかにも各種の賞を受賞しており、視聴率以外でも日本テレビの番組等が評価されている。

2. 視聴率動向と編成戦略

・視聴率動向

視聴率は先週、週間三冠王を獲得。プロ野球のクライマックスシリーズ、日本シリーズの第 1 戦、第 2 戦の高視聴率が寄与した。三冠王の獲得は年間で 17 回目。昨年同時期までの週間三冠王の獲得回数が 7 回であった事に比べ、大幅に増加している。

10 月月間の視聴率は、全日とゴールデンタイムが 1 位、プライムタイムは 2 位。

年間視聴率は現在、プライムタイムが現在 0.1 ポイント差の 2 位で、追いつき追い越すためにはレギュラー番組の強化を最も重要視しており、その上で特番を編成していく事になる。レギュラー番組をないがしろにして特番を数多く編成する方針はとらない。12 月に入ると特番競争になるので、その段階で強い特番を編成する。昨年に続き、年間視聴率のトップを維持していく。

視聴率は全体に好調だが、引き続き質の良い番組を製作してライバル局と良い意味で競争をする事で、視聴者の期待や視聴率全体を高めていきたい。

・10 月新番組

水曜ドラマ「東京全力少女」が想定よりやや視聴率が低い状況だが、女性層

の支持を多く頂いている。また主演の武井咲さんの役は今までのドラマにない明るいキャラクターであり、今後に期待したい。

土曜ドラマ「悪夢ちゃん」は内容も評判も視聴者層も期待通り。週末にご家族そろってご覧頂ける内容で、映像表現も様々な手法を用い、主演の北川景子さんは感情が表に出るキャラクターを好演して、今期各局ドラマを代表できる作品の一つになるのではないかと考えている。

バラエティー新番組では、火曜 21 時「解決！ナイナイアンサー」は初回スペシャルが 12.8%。レギュラーになってもコンセプトが確立されており、「相談員」のキャラクターも豊かで新たなスターが生まれそうな予感もする。順調な滑り出しで、内容にもいい手応えを感じている。

木曜 19 時「快脳！マジかるハテナ」は初回スペシャルが 8.8%。試行錯誤している部分もあり、クイズも試しながら変えていく事になる。一喜一憂せずに内容をしっかりと詰めていきたい。

3. 営業状況と放送外収入

・営業状況

上半期の放送収入は、タイムセールス、スポットセールスともに前年同期を大きく上回った。特にタイムセールスは、レギュラー番組がカロリーアップしたほか、ロンドンオリンピック、「24 時間テレビ」等の大型単発番組もあり、好調であった。スポットセールスも前年同期比で大幅に上回り、上期シェアは前期比 0.4 ポイント増加の 25.4%。

下半期は、10 月のタイムセールスが新番組を含め順調に推移。スポットセールスはやや悪く、前年同月比 90%に届かない状況だが、11 月は回復傾向が見られる。ただし、経済・政治情勢等不透明な点が多いため、現状では今後の広告市況の見通しを述べる状況にない。

・放送外収入

映画「ツナグ」が公開 2 週目で動員 1 位を記録し好調。公開後 23 日間で 106 万人の方々にご覧頂き、興行収入は 12 億円を超えた。

先週公開の「009 Re : Cyborg」は週末 2 日間で動員 4 万 1,000 人と順調なスタート。

「おおかみこどもの雨と雪」は先週末までの 100 日間で 340 万人の方々にご覧頂き、興行収入は 41 億 7,000 万円と大ヒットとなった。

今後は 11 月 17 日に「エヴァンゲリオン新劇場版：Q」、11 月 23 日に井上真央

さん主演の「綱引いちゃった！」が公開、12月15日には「映画 妖怪人間ベム」と、毎月新作を投入していく。

4. その他

・日本テレビホールディングス発足1ヶ月

ホールディングス傘下9社の社長による経営戦略会議や、内部統制をグループ全体で一元的に行っていく等、ホールディングスとしての一体化がスタートした。今後は傘下9社の資源を有効活用し、独立心と連帯感を強化して実績を上げていきたい。

・iPS 関連報道

森口尚史氏が iPS 細胞を臨床応用したと主張する問題について、日本テレビは報道番組等で森口氏の主張に沿って放送した。その後、内容に誤りがある事が判明したため、お詫びおよび検証の放送を行った。また10月25日付で関係者の処分も行った。

大きなニュースであればあるほど、しっかりとした裏付け取材をしなければいけない事を改めて肝に銘じた、そういう教訓を残したケースであった。取材内容の裏付けをきちんととる事は基本で、その基本に忠実にならなければいけない。

・スカイツリーへの機能移転

スカイツリーへの機能移転については、NHK 含め在京キー局6社の担当部門が協力して行っている。一部で受信障害が起こる恐れについては、できるだけ早期に受信障害がないようにしなければいけない。実態を把握して早期に対策を立てたい。しかし、各社共同の作業であるため調査終了の時期はここでは控えたい。移転の時期は来年の春頃を目途に進めているが、少なくとも1月に移転する状況にはない。

一方で移転に伴い、視聴者の皆さまにどのような負担が発生するかについては詳細がまだ判明していないが、各局ともできる限り視聴者の皆さまに負担をおかけしない形で対応しようと考えている。実態調査と対策が固まり次第、皆さまにお伝えしていきたい。

・日本シリーズ

日本シリーズ第1戦、第2戦の視聴率は想定よりやや低かった。クライマックスシリーズで巨人は3連敗の後、3連勝と劇的な形で日本シリーズに臨み、ク

ライマックスシリーズ最終戦は 20%を超えていたため、日本シリーズはさらに高い視聴率を期待していた。引き続き、緊迫した日本一決定戦をお楽しみ頂きたい。

(了)